

(ラスベガスにて)

桃太郎「ハイ！ダニエル。調子はどうだい？」

ネグラール「モモじゃないか！？これは驚いた、僕はてっきり今年も君は WSOP には出場しないものだとはばかり思っていたよ！」

桃太郎「いや、その通りだよ。WSOP に参加しに来た訳じゃないんだ」

ネグラール「なんだそうなのか。ふう、びっくりさせないでくれよ。君がいたらブレスレットを取れる確率がかなり下がってしまうからね。はっきり言って-EV さ」

桃太郎「ダニーそれは買いかぶり過ぎさ。ほんの2~3%って所だろう？」

ネグラール「とんでもない！君が本格的に復帰するなら、僕は性転換してレディースイベントに出るしかなくなってしまうよ」

桃太郎「その時はぜひアイビーも一緒に連れてって欲しいね」

二人「HAHAHA!!」

桃太郎「おっといけない、今日は君にお願いがあつて来たんだよ、ダニエル」

ネグラール「なんだいあらたまつて、女房を貸す以外だったら何でもするよ？」

桃太郎「いや、それはまた今度お願いするとして、実は君の書いたスーパーシステム2の事なんだ」

ネグラール「ああ、ずいぶん昔の話だね」

桃太郎「もう十年程前になるかな。しかし君の書いた2-7TDのストラテジー、あれを越えるものは未だに出てないと思うよ」

ネグラール「いやいや、そんな事はないさ」

桃太郎「お願いというのは他にもない、君のこの本を日本のポーカープレイヤー達に翻訳して紹介しようと思ってね」

ネグラール「それをわざわざ断りに来たのかい？相変わらず義理堅い奴だな」

桃太郎「謝礼も何も出ないんだけど、いいかな？」

ネグラール「もちろんさ！こういう時ジャパンでは、サワラヌカミニタリナシって言うんだろ？」

桃太郎「(微妙に違ってるけど、まあいいか)サンキューダニー。じゃ、WSOP 頑張ってくれよ。君がブレスレットを取るのを期待してるよ」

ネグラール「ありがとう。モモも元気で」

桃太郎「グッバイダニー。グッドラック！」

プレイヤーA「ミスターネグラール、今の全裸の人は誰なんですか？」

ネグラール「ああ、彼はジャパンのフェイマスポーカープレイヤー、モモタロウザムライさ！」

・・・と言う夢を見たので、みんなでがんばって勉強するでござるよ。

## <スターティングハンドとプレドローでのプレイ>

トリプルドローで一番大切な事は、**2**を持たずに参加してはいけないと言う事です。

2は他のカードよりも重要なカードです。

2-7TDの最終的な目標は7ハイを作る事です。

全ての7ハイには2が含まれており、2が必要なのです。

23457

23467

23567

24567

### パットハンド

パット7はどんなものであれ、モンスターハンドです。

パット8もかなり良い部類です。

パット7や8の場合スロープレイは必要ありません。常にレイズして行きます。

しかし9パットはプレイするのは難しいです。

もしマルチウェイポットで98764の場合はマックした方が良いでしょう。

しかし97432などの場合は、9をチェンジして7ハイを引きに行きます。

### 1枚ドロー

全ての7ハイドローはプレイ出来ます。

ただし4567の形だけは別です。

アウトが2だけしかなく、マルチウェイポットでは恐らく2はデッキにもう残ってはいないでしょう。

それ以外では出来る限り相手とヘッズアップとなるようにレイズします。

もちろん2347などの形ならマルチウェイでも大歓迎なのですが、

ハンドの強さを悟られない様に、1枚ドローなら常にレイズ・リレイズします。

7ハイドローではポジションに関わらずアグレッシブにプレイします。

もしストレートドローの形(2345、2346、2356、2456)でもプレイすると決めたなら

同じ様にアグレッシブにプレイするべきです。

7が引ければよし、8を引いても十分に戦えるポテンシャルを持っています。

8ハイの1枚ドローはストレートにならない時だけプレイ出来ます。

ただし、相手が一人だけの時か又はブラインドスチールやブラインドを守る時だけにしておいた方が良いでしょう。

いずれにしろ、1枚ドローでポットに参加する場合は必ずレイズ、リレイズします。

## 2枚ドロー

ファーストドローでは、ほとんど2枚ドローになります。

その内、ストレートにならない形ならベット・レイズし、ポジションがあるならレイズもします。

相手が一人で、さらにポジションがあれば、今後のアクションが楽になります。

## 234vs237

この二つのハンドのどちらが優れているのかは、良く議論的となります。

私としては、どちらも大差なく、同じ様にプレイ出来ると思います。

しかし、237vs234で多くのシミュレーションをした結果、237は234より1%勝率が勝りました。

では237がベストハンドかと言うとそうではありません。

234は237以外のハンドに対しては、237よりも高い勝率があるのです。

234が237とぶつかる事はそれ程多くありませんが、その時でさえ私は234の方が良いと思います。

なぜなら、お互いが同じ7ハイや8ハイを完成させた時に234は必ず勝つ事が出来るからです。

例えば234が8ハイとなった場合、8-7となるのは23478の場合だけですが、237では

23478、23578、23678の4種類があります。

237は最初に8を引いてしまうと、難しい選択を迫られます。つまり2378から8を捨てて7ハイを目指すか、それとも8ハイのままにするかです。

一方2348なら、もちろん8は残します。

## 6に注意

6の含まれたスターティングハンドには4種類あります。

ほとんどの場合でプレイして行って良いのですが、これらのハンドではナッツを作る事は出来ません。

236、246、256、267

最初の3種類はストレートが出来てしまう形になり易いのが悩みの種です。

これらはプレイ出来る場面も多いのですが、前に多くのアクションがあった場合(例えばタイトなプレイヤーがレイズしている等)はフォールドした方が良いでしょう。

8ハイドローで良いものは、ナンバー5(23458)を作れるものです。

すなわち238、248、258になります。ここでも6には注意が必要です。

8-6はショウダウンで負ける事が多いです。アーリーポジションからは6の入ったハンドはフォールドした方が良いでしょう。

ただしレイトポジションや、ブラインドを守る時には参加しても良いでしょう。

ブラインドでのプレイは後述します。

## トラブルハンド

これらのハンドはブラインドのスティールやディフェンスの時にだけ参加します。

347、357、367、457、348、358

これらはトラブルハンド、あるいはクズハンドです。

これらのハンドをプレイしても、すぐにストレートや悪い8ハイになってしまいます。

手が良くなるカードを引けなかった時は、すぐにマックすべきです。

もちろんそれはキーカードである2です。

基本的には2が引ける事を期待してはいけません。2は既にそこにあるべきなのです。

## 3枚ドロー

3枚ドローに行くのは、BTNからブラインドをスチールする時と、ブラインドをディフェンスする時だけです。

そして残りの2枚のカードは23、24、25、27でなくてはなりません。

26は入っていません。

あなたはすでに3枚ドローを行おうとしているのです。これ以上トラブルを増やしてはいけません。

3枚ドローはBBで、もう1betで参加出来る時は正当化されます。

そしてBTNで他に誰も参加者がいない時はスチールを試みてもいいでしょう。

4枚ドロー、5枚ドローはフォールドします。

## ブラインドでのプレイ

ブラインドではとても良いポットオッズが与えられるため、悪いハンドでも参加したくなります。

しかし、悪いスターティングハンドで参加する事は、バンクロールに悪影響を与えます。

悪いスターティングハンドでプレイすると、後に難しい判断を迫られます。

例えば456です。この手で奇跡的に27や28を引いたとします、しかしそれでもなおハッキリしない手にしかならないのです。

こんなハンドはマックして、頭痛からあなたを守りましょう。

ブラインドでのプレイでスターティングハンドに加えて良いのは、

良い形の3枚ドロー(23、24、25、27)と8ハイの2ドロー(348、358)です。

そしてポットオッズが非常に良い時は2のない7ハイドローもプレイ出来ます。(347、357、367、457)

悪い形の場合は出来るだけ、安くドローすべきです。

レイズにはコールし、前にレイズがあった場合はフォールドします。

ブラインドで1枚ドローなどの良いハンドが入った場合、レイトポジションからのレイズにはレイズします。

## SBvsBB

SBで誰も参加者がいない時、調子に乗ってブラインドをスチールしに行ってはいけません。

あなたにはポジションがないので、実際はBTNの時よりタイトに行かなくてはならないのです。

2のに入った3カードドロワー(23、24、25、27)はプレイ出来ますが、BBがルーズアグレッシブなプレイヤーの時はリンブします。

保守的なプレイヤーならレイズします。

ただしSBと言うのは一番最初にアクションしなければならない不利なポジションだと言う事を忘れないで下さい。

他に参加者がいた場合はタイトなスターティングハンドを厳守しましょう。

BBで相手がSB一人の時は、かなり悪いハンドでも参加出来ます。

この時は3枚ドロワーの34でもプレイ可能です。

あなたにはポジションがあり、3:1のオッズがあるので、ナッツが引ける可能性のあるハンドなら何でも参加出来るのです。

### レイズに対してのプレイ

BTNにいて前にレイズがあった場合、リレイズしてヘッズアップに持ち込みましょう。

234、237や1枚ドロワー、パットハンドなどは全てリレイズ出来ます。

もしハンドが3bet出来ないものだったらフォールドしましょう。

238はBTNからレイズして行くには良いハンドですが、レイズにコール出来る強さはありません。

## ファーストドロー後のプレイ

ドローの後のアクションは、基本的にハンドが改善したら **bet**・レイズし、

そうでない時はチェック・フォールドします。

ただし相手と自分のハンドによっても変わって来ます。

例えば自分が **2347** で相手が **2** 枚ドローした場合などは、ハンドが改善したかどうかに関わらず **bet** して行きます。

## ドローをミスした場合

ドローをミスした場合のアクションはポジションと相手のドロー枚数によって変わります。

あなたが **1** 枚ドローで、相手が **2** 枚ドローなら常に **bet** して行きます。

自分のドロー枚数が相手より少ない時は大抵 **bet** して構いませんが、例外もあります。

例えば、あなたが **2** 枚ドローで発展せず、**3** 枚ドローの相手が **2** 人いる時などはチェックしましょう。

ポジションがなく、ドロー枚数が同じだった場合はハンドが改善したら **bet**、そうでないならチェックします。

例えば **SB** で **2567** だったとします。

レイトポジションのプレイヤーがレイズしたのでレイズしました。

あなたは **1** 枚ドローし、相手も **1** 枚ドローでした。

この時、カードが引けなかったのにも関わらず **bet** するのは馬鹿げています。

**bet** しても相手を降ろす事は出来ませんし、もし相手が引けていたらレイズして来るでしょう。

この場合の最善は、マージナルなハンドで **1bet** を獲得する事で、最悪は勝ち目のないハンドで **2bet** を失う事です。

**2** 枚ドローでマルチウェイの時は、ハンドが発展してなくてもコールします。

何故ならポットはもうすでに十分大きいからです。

ただし相手が二人とも **1** ドローだったり、一人がパットだった時などはコールしない方が良いでしょう。

コールした後でレイズが来た時に、次のドローのために大きなコストを支払わなければならなくなります。

## ハンドが改善した場合

この場合は**アグレッシブ**にプレイします。

マルチウェイでは、なるべく参加者を減らす様に務めますが、

ヘッズアップになった場合はそれ程アグレッシブでなくとも構いません。

例えば、あなたは **UTG247** でレイズ、**BTN** がコールし、さらに **BB** がリレイズしました。

**BB** は **1** 枚ドロー、あなたと **BTN** は **2** 枚ドローです。

ドローの結果、あなたのハンドは **2457** になりました。

**BB** は **bet**。

さてこの時、レイズした方が良いでしょうか、それともコールでしょうか？

正解は**レイズ**です。

あなたのハンドはパットには負けていますが、ナッツへのドローもあります。

しかしそれよりも重要なのは、**BTN** を降ろすためにプレッシャーをかける事なのです。

ここであなたがコールしてしまうと、BTNは2枚ドローでも十分なポットオッズを与えてしまいます。  
一方ヘッズアップだった場合、BBのbetにレイズしても構いませんが、コールした方がベターです。

### 8を引いたらどうするか？

237から8を引いた場合、とても難しい判断を迫られます。

それが難しいのは、相手の人数や、ポジションなどによって答えが変わって来るからです。

まず参加人数が多い場合は8を切ってナッツを引きに行きます。

8を残しても、86、85や7ハイに負ける事が多いからです。

相手が一人の時は基本8を残しますが、相手のドロー枚数とポジションによって変わります。

まず相手のドロー枚数が2枚、3枚の時は8を残します。

ポジションがない時はなるべくナッツを引きに行った方が良いでしょう。

### ディスカード

234KQと23434はどちらも234のドローですが、23434の方が強いと言えます。

何故なら相手が34を必要としていた場合、ドロー出来る可能性が減るからです。

そして自分にとっても、ペアとなる確率が減る事になります。

23434がドロー後に2348となった場合は8をキープしても良いでしょう。

### ファーストドローで8ハイが出来た時

ファーストドロー後に8ハイが出来ても状況によってはそれを崩して行かなくてはならない事もあります。

例えば23678が出来た時、前の相手はパットしたとします。

果たして彼は9ハイでパットするのでしょうか？

また876よりも悪い8ハイでパットするのでしょうか？

この様な場合は8を切って7ハイを目指さなくてはなりません。

## セカンドドロー後のプレイ

こちらが2枚ドローで、相手にパットや1枚ドローがいた場合は常にチェックします。

ほとんどの場合相手はbetして来ますが、betしなかった場合はフリーカードを得られます。

お互いが1ドローで、カードが引けなかった場合もチェックします。

## betする時

相手の方がドロー枚数が多かった場合は常にbetします。

こちらがパットで相手がドローだった場合は100%betします。

相手にフリーカードを与えてはいけません。

パットハンドが完成した場合もbetします。

例えば97642の様なハンドが完成した場合ラストドローではパット出来ます。

9ハイはどんなドローハンドに対しても有利だからです。

(ただしこちらのbetに対してレイズが入らなかった場合)

相手に見抜かれないために、ポジションがあつて、プレミアドローの時もbetします。

例えば23477で既に34をチェンジしている時などです。

ポジションがあるのにbetしないと、相手にこちらの手が完成していないとバレてしまいます。

すると相手は2348Tの様なハンドを次のドローではパット出来てしまうのです。

こちらがパットかどうか分からなければ、相手はTを切ってドローするしかありません。

2348と2347ならばこちらの方が有利となります。

ポジションがない場合はこの様な良いハンドでもチェックします。

ここは重要なポイントです。

この時点でbetしても相手は降りる事はありません。

必ずレイズかコールして来ます。

レイズされた場合はこのbetを失う可能性が高いです。

ポジションがない場合は損失をなるべく抑え、

マージナルなバリューbetは避けるべきです。

## コールする場合

お互いが1ドローで、あなたはナッツドローをミスしたとします。

この時相手がbetして来たら、単にコールします。

あなたが2ドローで、相手は1枚ドロー。

有効カードを1枚引いて、1枚ドローになった時もコールします。

幸運にもハンドが完成したらもちろんレイズします。

しかしポジションがあつて完成したハンドが24678などだった時はコールした方が良いでしょう。

コールする事によって、相手はあなたをドローだと思うでしょう。

すると T7432 の様なハンドはパットするかも知れません。

確かに 8 パットはどんなドローよりも優っていますが、それでも bet してドローさせるより、

コールしてパットさせた方が良いでしょう。

このプレイは非常に重要です。

### レイズする場合

7 ハイや 8-6、8-5 ハイの場合はもちろんレイズします。

マルチウェイでもレイズして他のドローハンドにプレッシャーをかけるべきです。

良い形のドローハンドの場合、1bet なら大抵コールしますが、レイズがあった場合はフォールドする人もいます。

ヘッズの場合も同様にレイズします。相手がドローの場合は有利ですし、

8 パットの場合でもメイクプレイする事が出来ます。

### メイクプレイとは何か？

ここでのメイクプレイとは、例えば良形のドローハンドの時などに、

レイズして相手のパットハンドを崩させる事を言います。

例えばあなたが 22377 から 2 枚ドローして 2347 となったとします。

相手は 1 枚ドローで bet、あなたはレイズし、相手はコールしました。

セカンドドローでは相手はパットしましたが、これは恐らく強いハンドではありません。

何故ならレイズにコールに留めていましたし、2 と 7 をあなたが 2 枚ずつ抑えているからです。

恐らく相手の手は良くて 34568 か 9 ハイと言った所でしょう。

しかしあなたもドローをミスして、なんと 7 をまた引いてしまいました。

23477

ここで相手が bet して来たら、コールすべきでしょうか、レイズすべきでしょうか？

それは相手しだいになりますが、もし相手がフォールドや 9 ハイを崩してドローする様なら

レイズが正解となります。

しかし相手がフォールドもパットを崩す事もしない様なら、コールが正しい選択です。

これはちゃんと考えるプレイヤーには有効ですが、コーリングステーションなどと言われる BAD プレイヤーに行っても無意味です。

## チェックレイズする時

セカンドドローで、あなたの方がドロー枚数が多い、または相手がパットだったとします。

この時にハンドが完成した場合は**チェックレイズ**出来ます。

まともな相手なら、あなたにフリーカードを与えないために、**bet**して来るはずですが、

ただし相手が初心者の場合は別です。レギュラーならこの状況では確実に**bet**しますが、

初心者はチェックしてしまう事も多いのです。

7ハイもしくは良形の8ハイならチェックレイズ出来ますが、弱い8ハイ、9ハイなどではリスクです。

ポジションがない場合は、弱いハンドで勝負するのは避けなくてはなりません。

## フォールドする場合

セカンドドロー後にまだ2枚ドローが必要な時はフォールドします。

また相手がパットで、あなたが悪形の8ハイドローの時もフォールドです。

例えば相手がパット、あなたが**2678**だったとします。

2回目のドローをパットしたという事は、相手は恐らく8ハイ以上を完成させています。

この場合はあなたはハンドを完成させても負けている、**ドローイングデッド**となっている事が多いのです。

また9ハイ、弱い8ハイなどを完成させ、**bet**してレイズされたときもフォールドを考えます。

例えば**23789**の時などです。

コールして、相手がドローするのに賭けるか、もしくは9を切って**87**を作りに行くか。

相手にもよりますが、一番簡単なのはフォールドする事です。

また自分より前に**bet**、レイズがあった時もフォールドします。例えナッツのドローだったとしてもです。

驚くかも知れませんが、これには理由があります。

例えば**2457**の時、前に**bet**とレイズが入りました。

コールして最後のドローで**6**を引いたとしても、**24567**は十分強いとは言えません。

ナッツを引くには**3**が必要ですが、果たして**3**が4枚丸々残っているなどと言う事はあるのでしょうか？

さらにコールしても、**bet**した相手がさらにリレイズしたらどうすれば良いのでしょうか。

あなたのドローハンドはそれ程良くは見えなくなるはずですが。

## パットする場合

Jパットが1枚ドローよりも勝っていると言うのは常識です。

J**986**でさえ、**2347**に対しては**55%**の勝率があります。

では残り1ドローで、Jパット以上のハンドはすべてパットするべきなのでしょうか？

必ずしもそうとは言えません。

ポジションがなく、相手がドローなのかパットなのか分からない時は、ドローすべきです。

しかしポジションがある時は良形のドローなら、相手がドローだとしてもパットせずにドローした方が良いのです。

ポジションがあると言う事は、ドローに対するパットと同じ位のアドバンテージがあるからです。

最後にアクション出来ると言う事は、bet せずショウダウンする事も出来るし、強い手で bet して行く事も出来ます。また弱い手でブラフする事も出来ます。

Jハイは確かにドローよりは強いハンドです。それは間違いありません。

しかしJをパットしてしまうと、後は相手がドローをミスする事を祈ってチェックするしかありません。

### マルチウェイの場合

相手が2人以上の場合はどうなるでしょうか？

二人ともドローハンドだった場合、Jパットの勝率は20%となります。

これはあまり良くありません。

二人相手の場合、パットとして有利になるのは9パットからです。

ポジションがある場合は簡単です、相手が二人ともドローしたならパットすれば良いです。

しかしポジションがない場合、9をパットするかどうかは難しい判断を迫られます。

この場合はドロー前にbet するべきです。

誰もbet にレイズしなかったら、そのままパットします。

レイズされたら9を崩してドローしましょう。

### パットを崩す場合

パットハンドを崩してドローするかどうかの判断は、多くの場合あなたの読みの能力に左右されます。

もしあなたがビギナーなら、行わない方が良いでしょう。

基本的に8ハイ以上の手が完成したなら崩さずにパットします。

特に86、85なら決してドローには行きません。86、85では勝てないと言う明確な理由があるなら、それはフォールドすべきです。

しかし87の場合は違います。

87はドローする事で、86、85、または弱い7ハイに勝てるハンドとなる可能性があります。

例えばあなたが87632で、相手はそれより強いハンドを持っていると読んだとします。

この場合は8を切って、4や5を引きに行きます。

しかし前述した通り、その判断は非常に難しいです。

もし相手が9ハイやドローハンドでbet していた時は、8を崩す必要はまったくないからです。

## リバーでのプレイ

リバーではトリッキーなプレイをする必要はありません。

ポットはすでに十分大きくなっていますし、ブラフするのは難しいからです。

2-7TDでのブラフはもっと前の段階で行なうものです。

## 2nd ドロー時に二人とも 1 枚ドローだった時

この時ブラフは無意味です。ブラフしてもほとんどコールされるでしょう。

例えば Q、K、A ハイなどでブラフするのは間違いです。

あなたが負けているハンドにしかコールされませんし、

ペアなどには別にブラフしなくとも勝っているからです。

また 22 などでもブラフはしません。お互いがペアだとしたら勝てる可能性があります。

ブラフするのはビッグペアの様に、そのままでは確実に負けているハンドで行います。

ただしこれが有効なのは、相手にもペアが出来ている時だけです。

しかし私は以前 66 でブラフにコールしていたのを見たことがあります！

リバーはバリューbet の場であり、ブラフする場ではないのです。

一方で自分のハンドが J ハイ以上なら、bet にはコールします。

Q ハイ～22 までも、多くの場合はコールします。

先に bet する場合も J ハイ以上が出来たならバリューbet すべきです。

前述した様に、J はすべてのドローより勝っているからです。

ただしこの時はレイズされる事があります。相手にもよりますが、

レイズされた場合は恐らく 8 ハイ以上が出来ているでしょう。

## 相手がパット、自分が 1 ドローだった時 (ポジションなし)

例えば 2357 から 4、6、8、9 などを引いた時はチェックレイズを仕掛けたい所です。

相手のアグレッションにもよりますが、9 や T でも bet するような相手ならチェックして bet させましょう。

シンプルに行くなら、初めから bet して弱いハンドにコールしてもらい、

強いハンドにレイズされない事を期待します。

一方、この時はブラフが有効になる事もあります。

例えば 77 になってしまった時に bet するのです。

まともに考えれば、パットに対して bet するという事は、何か強いハンドを完成させたのだと思うでしょう。

すると J や T、場合によっては 9 ハイなどを降ろせるかも知れません。

ただし相手が 1 回目のドロー後にパットしたならブラフしてはいけません。

この時は恐らく 8 ハイ以上のハンドが出来ていると考えられます。

## 相手がパット、自分が1 ドローだった時 (ポジション有り)

ポジションがあれば、より多くの情報を得る事が出来ます。

相手がチェックしたなら、恐らくはTハイ以下のハンドでしょう。

この時、8ハイ(相手によっては9ハイでも)以上ならバリューbet します。

ただし、相手がチェックレイズして来る事もあります。

特に相手が早い段階でパットしていた場合は、チェックレイズや

あなたのブラフを待ち構えている可能性があります。

例えば 25678 は早い段階でパットした相手には bet 出来ませんが、3rd でパットした相手には bet 出来ます。

先に相手が bet して来た時は 86 以下のハンドならコールし、それ以上ならレイズします。

## 相手 1 ドロー、あなたがパット(OOP)の場合

9、T、Jハイではチェックします。

また弱い8ハイでもチェックした方が良いでしょう。

相手が bet して来た場合、こちらより強い手を完成させている可能性は高いですが、

すべてクライングコールします。

また7ハイが完成している時に、あえてチェックするのも悪くありません。チェックする事で8ハイの相手からの bet を誘いチェックレイズするのです。

しかし普通にプレイするなら7ハイはバリューbet して行きます。

## 相手 1 ドロー、あなたがパット(IP)の場合

あなたがファーストドロー後に弱い8ハイ(87642 等)をパットした場合、

相手がチェックしたならこちらもチェックします。

ここで何も考えずに bet してはいけません。

相手もあなたが8ハイ以上だと言う事は分かっています。

ここで bet しても、8ハイ以上のハンドにしかコールされません。

そしてさらに強いハンドにチェックレイズされる危険もあります。

もしあなたがセカンドドロー後に8ハイを完成させてパットしたなら bet しても構いません。

この場合はあなたのハンドには~Jハイの可能性があるので、

相手も9、Tハイなどでコールしてくれる可能性があります。

## リバーでのレイズ

リバーで5bet までするのは、ナッツか764(ナンバー2)の時だけです。

ほとんどのプレイヤーは8ではリレイズしません。

ちゃんとしたプレイヤーなら7ハイでも24567ではコールするでしょう。

## Snowing

例 1:例えば 22223 の様なハンドが配られた時にはフォールドする以外に、

222 をチェンジする、ブラフすると言った選択肢もあります。

2 がない以上、相手は 8 ハイまでしか作れず、強いプレッシャーを与える事が出来ます。

私が以前ガスハンセンと 1500/3000\$ をプレイした時の事です。

私は 2227Q からこの snowing を仕掛けました。

所が残念ながらガスは、3rd ドローまで降りてくれずにパットしたのです。

そこで私は、恥ずかしながら 3 枚をドローしました。

ところがなんとそこで私は 345 を引いてナッツになったのです！

もちろんガスがその後で、面白くない目にあっただけとは言ってもありません。

この話のポイントは、ブラフに失敗して相手がパットしたら、ブラフを続けてはならないと言う事です。

例 2:セカンドドロー後に相手がチェックしました。あなたのハンドは 33457 です。

相手はチェックしたので、恐らくまだパットではないと考えます。

この時 bet し、そしてパットしたなら相手はあなたが 8 ハイ以上を完成させたと思うでしょう。

3rd ドロー後に再び bet すれば、恐らく J ハイ以下のハンドはフォールドするはずです。

例 3:セカンドドローで相手は 1 枚ドロー、あなたは 237 の 2 枚ドローでした。

ドロー枚数が上回っているので、恐らく相手は bet して来ます。

ところがあなたの引いたカードは 22 でした。

この時、普通にコールして 2 枚ドローしたのでは不利です。

しかしここでレイズして、ラストドローをパットするのはどうでしょう？

もし相手がドローしたら、ブラフパットして bet します。

もし相手がドローをミスしたり、弱いハンドならフォールドするでしょう。

しかし相手がパットだったら、その時は 2 枚をドローしに行って、ラッキーが起きるのを期待します。